

平成29年度

事業報告書

自 平成29年 4月 1日

至 平成30年 3月31日

社会福祉法人 津野町社会福祉協議会

事業実績の概要

平成29年4月1日、改正社会福祉法が施行し、経営組織のガバナンスの強化、事業運営の透明性の向上等の改革が求められるなか、新定款に基づき、評議員会や理事会の体制整備や情報公開に努めた。

更に、孤立する住民の支援や地域福祉活動支援の両面を強化するために、生活困窮者自立相談支援事業、福祉サービス利用援助事業、介護事業、就労支援事業や地域福祉事業等、各種の事業を横断的に捉えながら、関係機関と連携し、伴走型の個別支援と地域福祉推進に努めた。

平成29年度重点的な取り組みに関する評価

1. 地域ごとの福祉ネットワーク構築に向けた人材把握と課題共有のための協議

地域づくりの核となる住民の存在を知るために「福祉委員・民生児童委員連絡会」の場を活用し、人材把握を行った。地域住民から学ぶことで同時に地域の様々な活動にもふれることができた。地域から推薦された人材(住民)には、本会が主催する住民福祉研修の参加を呼びかけ、意識と課題の共有がはかれるよう努めた。

2. 福祉課題を抱える人たちへの関係者ネットワークを基盤とした個別支援

自立した生活が送りにくい様々な困難を抱える人への相談支援活動を民生児童委員、行政や民間事業所、県社協と同行訪問やネットワークに関する会議、日常的な課題情報共有を通じて実施することができた。

1. 法人基盤整備・強化

役員等の権限・義務・責任の明確化、評議員会による理事等をけん制監督のしくみなどガバナンスの強化を図るため、改正社会福祉法及び本会定款のルールに基づき、理事会、評議員会を開催した。

(1) 理事会

改正社会福祉法施行後、新定款に基づき意思決定機関として事業経営を行った。社会福祉法人としての責務を意識しながら、本会が抱える様々な課題を協議検討した。

6月定時評議員会において理事8名、監事2名が選任され、理事会の決議により、会長に松岡民雄、副会長に高本康稔が選定された。

理事会には、職員も参加し、役職員が課題意識の共有を図った。

開催日 場所	会議の名称 出席者数	議 題 及 び 内 容
平成 29 年 5 月 30 日 津野町福祉交 流センター	第 1 回理事会 理事 7 名 監事 2 名 (事務局 6 名)	〈議案〉 ・平成 28 年度事業報告書の認定 ・平成 28 年度計算関係書類及び財産目録の承認 ・平成 29 年度補正予算 (第 1 次) ・ボランティア活動・福祉教育推進事業助成金交付対象事業の承認 ・理事・監事候補者の選定 ・評議員会の招集 〈協議・報告〉 ・会長専決事項報告 (経理規程の一部改正) ・西支所の事務所について ・会長会務報告
平成 29 年 6 月 19 日 津野町総合保 健福祉センタ ー「里楽」	第 2 回理事会 理事 8 名 監事 2 名 (事務局 1 名)	〈議案〉 ・会長、副会長の選定

<p>平成 29 年 9 月 27 日</p> <p>津野町役場西 庁舎</p>	<p>第 3 回理事会</p> <p>理事 7 名 監事 2 名</p> <p>(事務局 5 名)</p>	<p>〈議案〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 育児介護休業等に関する規程の一部改正 <p>〈協議・報告〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 老人福祉センターの指定管理に関すること ・ 認定就労訓練事業について ・ 権利擁護、法人後見事業について ・ 災害時初期行動計画について ・ 地域福祉を取り巻く動向と本年度の取組み ・ 職員体制について ・ 会長職務状況の報告
<p>平成 29 年 12 月 14 日</p> <p>津野町総合保 健福祉センタ ー「里楽」</p>	<p>第 4 回理事会</p> <p>理事 7 名 監事 2 名</p> <p>(事務局 6 名)</p>	<p>〈議案〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 平成 29 年度補正予算 (第 2 次) ・ 会員及び会費に関する規程の一部改正 ・ 会長専決に関する規程の一部改正 ・ 処務規程の一部改正 ・ 評議員会の招集 <p>〈協議・報告〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 地域福祉活動に関する取り組み状況 ・ 会長職務状況の報告
<p>平成 30 年 3 月 19 日</p> <p>津野町福祉交 流センター</p>	<p>第 5 回理事会</p> <p>理事 8 名 監事 2 名</p> <p>(事務局 6 名)</p>	<p>〈議案〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 平成 29 年度補正予算 (第 3 次) ・ 平成 30 年度事業計画 ・ 平成 30 年度収支予算 ・ 臨時職員就業規程の一部改正 ・ 評議員会の招集 <p>〈協議・報告〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 災害時初期行動計画について ・ 老人福祉センターの管理使用について ・ 会長職務状況の報告

(2) 監査

監事は、平成 28 年度事業及び会計監査を実施し、指摘事項を会長及び事務局へ告げた。同時に監査報告書を作成した上で、理事会で報告した。また、理事の業務執行状況を監査する立場から、全ての理事会に出席し意見を述べた。

- 実施日：平成 29 年 5 月 23 日（火）
- 場 所：津野町総合保健福祉センター「里楽」
- 監査項目：平成 28 年度事業実績報告書
平成 28 年度計算書類及び関係書類
- 中間監査：平成 29 年 10 月 23 日（月）

(3) 評議員会

改正社会福祉法施行日の平成29年4月1日より評議員の任期を開始し、評議員選任・解任委員会により選任された14名の委員に委嘱した。

法人運営の基本ルール、体制の決定と事後的な監督を行う議決機関として、新定款に定められた事項について決議を行った。

開催日 場所	会議の名称 出席者数	議 題 及 び 内 容
平成 29 年 6 月 19 日 津野町総合保健福祉センター「里楽」	第 1 回（定時） 評議員会 評議員 12 名 (会長、事務局 2 名)	〈議案〉 ・平成 28 年度事業報告書の承認 ・平成 28 年度計算書類、財産目録の承認 ・平成 29 年度補正予算（第 1 次）の承認 ・理事及び監事の選任
平成 29 年 12 月 22 日 津野町福祉交流センター	第 2 回評議員会 評議員 10 名 (会長、事務局 2 名)	〈議案〉 ・平成 29 年度補正予算(第 2 次)の承認 ・会員及び会費に関する規程の一部改正 〈協議・報告〉 ・会長専決に関する規程、処務規程の一部改正 ・老人福祉センターの管理使用について
平成 30 年 3 月 26 日 津野町総合保健福祉センター「里楽」	第 3 回評議員会 評議員 11 名 (会長、事務局 2 名)	〈議案〉 ・平成 29 年度補正予算（第 3 次）の承認 ・平成 30 年度事業計画 ・平成 30 年度収支予算 〈協議・報告〉 ・臨時職員就業規程の一部改正 ・老人福祉センターの管理使用について

(4) 評議員選任・解任委員会

選任及び解任について開催の必要性がなく、未開催であった。

(5) 住民会員制度

7月に、町内全域の成人に会員加入のお願いをしたところ、各地区長の支援、協力により、下記のとおりの実績があった。また、特別会員の加入についても、格段のご理解をいただき下記のような実績を上げることができた。

会費は、地域福祉活動推進のため活用し、加入状況、使途については、社協日より「あくしゅ」に掲載し、また、地区長会で報告した。

■個人会員

	会員数（人）	加入戸数（戸）	口数（口）	金額（円）
東地区	1,177	1,011	1,183	591,500
西地区	532	456	542	271,000
合 計	1,709	1,467	1,725	862,500
※前年度	1,831	1,564	1,867	933,500

■特別会員

	団体数	加入口数	金額（円）
町 内	3 7	4 0	200,000
※前年度	3 5	3 8	190,000



(6) 財源確保と管理運用

社会福祉法人会計基準及び本会経理規程に基づき、適正な資金管理と運用、財務諸表の公表による事業の透明性の確保に努めた。

社会福祉充実残額の確認を行い、社会福祉充実計画策定の必要性はなかった。町より事務局経費を中心とした補助金支援を受けた。また、町、県、県社協からは、各受託事業の必要経費を受け入れ実績報告を行った。

訪問介護及び訪問入浴介護は、不足分を町より支援を受けた。介護職員処遇改善加算分については、受け入れ後、介護職員等に一時金として交付した。

就労継続支援事業所は、利用者が減少したことで運営費収入が減少した。

生命保険協会より、福祉活動車輜として、軽自動車1台の寄贈を受けた。

(7) 職員体制

本所、西支所及び就労継続支援事業所「どんぐり農園」、「作業所里楽」にそれぞれ職員を配置した。職員の兼務により各事業の配置基準に対応したが、職員体制としては課題が残った。

<平成 30 年 3 月現在の職員体制>

本所	事務局長 ※就労継続支援事業所 管理者、支所長兼務 主監 ※訪問介護・訪問入浴介護事業所管理者兼務 主任 ※地域活動支援センター施設長兼務 ※日常生活自立支援事業専門員兼務 主幹 ※訪問介護事業所サービス提供責任者 事務職員（臨時） 事務職員兼訪問介護員（臨時） あったかふれあいセンター職員（臨時） (非常勤) 地域活動支援センター支援員(臨時) 配食員（非常勤） 訪問介護員（非常勤）	1 名 1 名 2 名 1 名 1 名 1 名 1 名 3 名 1 名 1 名 3 名	西支所	支所長（事務局長兼務） 主任 ※自立相談支援相談支援員兼務 事務職員（臨時） 配食員（非常勤） 訪問介護員（非常勤） サロン・入浴運転士（非常勤）	(1 名) 1 名 2 名 3 名 2 名 1 名
		就労継続 支援事業 所	サービス管理責任者 目標工賃達成指導員（臨時） [どんぐり農園] 職業指導員（臨時） 生活支援員（臨時） 職業指導員（非常勤） 送迎運転士（非常勤） [作業所里楽] 職業指導員（臨時） 生活支援員（臨時） 職業指導員（非常勤） 送迎運転士（非常勤）	1 名 1 名 1 名 2 名 2 名 1 名 1 名 2 名 1 名 1 名	
業務項目		正職員	臨時職員	非常勤職員	計
法人運営 地域福祉事業		4 名	7. 5 名	5. 5 名	1 7 名
介護事業		2 名	0. 5 名	5. 5 名	8 名
就労継続支援事業		1 名	7 名	5 名	1 3 名
計		7 名	1 5 名	1 6 名	3 8 名

2. 生活課題に向き合う総合相談

(1) 生活困窮者自立相談支援事業

生活保護に至る前の生活困窮者に対し、「就労支援」及び「その他の自立に関する問題について相談・支援」を行った。相談支援員及び主任相談支援員は、本会職員（2名）が兼務し、取り組んだ。

また、町校長会や民生児童委員協議会定例会、町関係部署との協議及び協力依頼を行った。

民生児童委員からの情報提供を受けながら同行訪問も行い、相談者の生活課題の把握・整理から課題解決に向けて状況に応じた包括的・伴走型支援に努めた。地域での「お気軽相談会」を開催し、当該地域内の戸別訪問も合わせて行うなどアウトリーチを積極的に行った。

- 相談件数 34件
- 支援回数 187回（電話・同行訪問・訪問等）

■若者サポート会議

引きこもりの若者無業者の支援のために、若者サポートステーション、教育委員会、町健康福祉課と協力体制をとり、定期的な関係者会議を開催した。

- 会議回数 4回

■フードドライブ活動

県下で展開される食料支援のための活動にも参加し、住民への呼びかけを「あくしゅ」や本所、支所の窓口で呼びかけ、多くの食料品のご寄付をいただいた。また、必要な方への食料提供活動も行った。

- 支援件数 3件



（２）福祉サービス利用援助事業

日常生活を送る上で、自分ひとりでは判断することが難しい高齢者や障がい者が安心して生活が送れるように、福祉サービス利用援助と日常的な金銭管理、暮らしのアドバイスを行った。

支援にあたっては、利用者の自己決定を尊重しながら、専門員と生活支援員が連携し、事業を実施することにより利用者の在宅生活を支援した。

専門員、生活支援員の資質向上を図るため研修会に積極的に参加し、本事業の理解や利用者の特性等について学んだ。

また、社協だよりへ事業概要を掲載し、周知に努めた。

課題として、関係機関との情報共有とチーム支援、長期入院（入所）者への対応、成年後見制度への移行支援がある。

- 平成２９年度末現在契約件数 ７件
- 相談件数 ２８件
- 支援時間 １６２時間
(生活支援員：93.5 時間、専門員：68.5 時間)

（３）生活福祉資金貸付相談制度

高知県社会福祉協議会との契約によって借受世帯に対する償還支援を実施した。特に、生活困窮者自立相談支援事業とも連携し、滞納世帯については、戸別訪問を行った。貸付相談が１件あった。

- 平成２９年度末現在貸付件数 １２件
 - 東地区 ４件（４人）
 - 西地区 ８件（７人）

3. 住民主体の福祉コミュニティづくり

(1) 福祉委員活動

＜平成29年度福祉委員・民生児童委員連絡会出席状況＞

開催日	対象地区	参加者数（延人数）							実人数
		民生委員	福祉委員	地区長	消防団	一般	行政	社協	
4月17日	桂、桑ヶ市、西倉川、岩土、船戸町、船戸奈路、西の川、中村	2	4	3	4	0	1	3	11
	姫野々	2	7	4	2	0	2	2	19
4月18日	新土居	1	7	3	2	0	2	2	17
	烏出川、力石	1	4	2	6	0	1	3	16
4月20日	黒川、白河瀬	1	3	3	2	0	1	2	12
4月21日	三間川、樺ノ川西谷	1	4	1	2	0	1	2	11
4月24日	永野、貝ノ川川の内	1	4	4	3	0	2	2	14
4月25日	大野、藤ノ川、鍵野々	1	1	2	0	0	1	2	7
	郷	2	7	1	4	0	2	2	17
4月26日	上井田、久保川	1	4	2	3	0	1	2	13
	高野	1	7	1	0	1	1	2	13
4月27日	北川、大古味	2	4	2	0	1	1	2	12
4月28日	下野、芳生野奈路	1	1	2	3	2	1	2	11
5月1日	宮谷、木桑	1	3	2	2	0	1	3	11
5月2日	新田、保井川	1	2	2	0	0	1	2	8
5月8日	赤木、桑ノ川、梶足	1	4	2	0	0	1	3	11
5月9日	船野、東倉川、舞ノ川、栗ノ木	0	2	2	0	0	1	2	7
5月10日	床鍋	1	8	1	3	3	1	2	18
5月11日	杉ノ川	0	4	3	0	0	1	3	11
5月16日	白石	2	9	6	3	0	1	2	17
合計（20会場）		23	89	48	39	7	24	45	256

東地区 92 名、西地区 71 名の福祉委員が、各地域で活動された。

福祉委員活動を理解しやすいように「福祉委員の手引き」を作成し、福祉委員・民生児童委員連絡会で説明、配布した。

福祉委員活動の周知と民生児童委員との連携を強めるため、また、地域の課題をわが事として見守り合える地域づくりを目指して、4月17日から5月16日の間、町内20会場で「福祉委員・民生児童委員連絡会」を開催した。本会の業務説明、防災活動の紹介の他、地域のキーパーソンやリーダーシップの取れる人の把握など新たな人財を得るための聞き取りを行った。



▲福祉委員・民生児童委員連絡会

(2) 地域サロン

各地区の地域性やニーズに合わせたサロン活動が地域の創意工夫で展開された。本会では、サロンの運営上の相談を受け支援等を行った。

サロン運営の支援やあり方を探るため、町との情報交換を行った。

➤ 平成29年度開催実績

報告サロン数：	35 か所	(東地区 24 か所)	西地区 11 か所)
開催回数：	延 680 回	(東地区 517 回)	西地区 163 回)
参加人数：	延 5,305 人	(東地区 3,775 人)	西地区 1,530 人)

■サロン世話人連絡会

サロン世話人連絡会は、昼の部と夜の部を開催し、参加しやすい環境設定に努めた。介護予防の取り組みの必要性や重要性を情報提供し、また、各サロンで課題となっている内容について意見交換を行った。

- 開催日：平成 29 年 4 月 20 日（木）
- 参加者：昼の部 9 サロン 13 人
夜の部 15 サロン 23 人

■輪投げ大会

サロン対抗輪投げ大会は、24時間テレビチャリティイベント時と住民研修時に併せて開催し、多くの住民でにぎわった。

- 実施日：平成 29 年 8 月 26 日（土）
- 参加者： 17 サロン 94 人
- 実施日：平成 30 年 3 月 25 日（日）
- 参加者： 9 サロン 47 人

（３）福祉パトロール

町内の 70 歳以上の一人暮らし高齢者や 75 歳以上の高齢夫婦世帯等に対して、民生児童委員、行政、消防、警察、ボランティアグループなど福祉関係団体の協力により安心・安全見守り台帳の聞き取り訪問調査を行った。

新たに対象者となった方には個人情報使用同意書に署名してもらった。



＜平成 29 年度福祉パトロール状況＞

項 目	東 地 区	西 地 区
実 施 日	6 月 2 7 日（火）	6 月 2 1 日（水）
訪問世帯・人数	1 9 9 世帯・2 6 0 人	1 6 6 世帯・2 1 5 人
協力者数	6 6 人	8 1 人

（４）安心・安全見守り台帳とお守りカード

高齢者等を対象にした福祉パトロールで、緊急連絡先やかかりつけ医、就寝場所などを聞き取り、安心・安全見守り台帳を作成した。その台帳の情報から「お守りカード」を作成し、608人の在宅一人暮らし高齢者等へ配置した。

- 配置者数：東地区 335人
西地区 273人

(5) あったかふれあいセンター事業

町より受託し、5か所のサテライト拠点で週1回のペースで実施した。
現場スタッフ3名及び送迎等支援非常勤スタッフ1名の体制で行った。

介護予防体操を全サテライトで毎回実施し、利用者の身体機能維持を図るとともに、体操への意欲向上に努めた。また、スタッフ間で介護予防体操のポイントを一つ一つ確認することにより体操時の姿勢や運動方法等の理解を深めた。必要に応じて、本会の地域福祉・在宅介護担当者と連携しながら利用者の情報共有や訪問活動にあたった。

住民主体のサテライトづくりを進めるために、アンケートなども活用しながら利用者の声を引き出すように努めた。

[集い]

サテライト 名称	開設 日数	利用者数（延人数）					前年度 利用者数
		高齢者	障がい者	子ども	その他	合 計	
いちょうの郷	43	776	0	8	19	803	860
鶴松の風	50	1,605	0	25	30	1,660	1,976
新田 くつろぎ家	47	957	6	0	15	978	977
いらずの さと	49	795	1	0	56	852	918
せんだん	48	1,141	21	6	66	1,234	1,383
合 計	237	5,274	28	39	186	5,527	6,114



[機能別利用者数（延人数）]

集い（再掲）	送迎	訪問	生活支援	相談
5,527	2,946	63	348	30

[会議の開催回数]

定例会	スタッフ全体会	ケース検討会	スタッフ会	運営協議会
4	9	12	23	32

4. 助け合い・支え合えるつながりづくり

(1) ボランティア活動・ボランティアセンター

■ボランティア登録

ボランティア活動保険や行事用保険の加入手続き及び活動を希望する人、団体の登録を行った。

- ボランティア登録者の現状
個人ボランティア登録 81 名（東 27 名、西 54 名）
- ボランティア活動保険加入手続き
加入者 11 グループ 225 人
ボランティア行事用保険加入手続き件数 22 件

■ボランティア連絡協議会事務局

町内各種のボランティア関連団体の連絡調整組織として、事務局運営を行った。各加盟団体へのお知らせとして、情報紙「ぼらんていあ」を 1 回発行した。

- 加入団体 17 団体

■24 時間テレビ「愛は地球を救う」チャリティキャンペーン

ボランティア連絡協議会を中心として、賛同団体による実行委員会を組織し、津野町全体の取り組みを行った。本会は事務局業務を担当し、テレビ局との調整、輪投げ大会等の内容企画実施、募金の集計送金等を行った。

- 実施日：平成 29 年 8 月 27 日
- 会 場：〈東会場〉葉山の蔵
〈西会場〉津野町福祉交流センター
- 募金送金額 661,538 円

(2) 住民参加型助け合い制度「ほっとサービス」

一人暮らし高齢者や高齢者のみの世帯、障がいのある方等の暮らしの支援として住民参加によるサービスを実施した。

＜平成29年度実績＞

受付件数 12 件 利用実績 8 件

協力会員：延 17 人 稼働時間：延 21 時間

- 庭木の剪定・・・・・・・・・・ 3 件
- 家周辺の草引き・・・・・・・・ 2 件
- 墓周辺の草刈・・・・・・・・ 1 件
- カーテンの付け外し・・・・ 2 件

(3) ふれあい配食サービス

一人暮らし高齢者等への昼食宅配サービス。東地区では、月4回、西地区では、月3回実施した。ボランティア、民生児童委員の全面的な協力を得て、一人暮らし高齢者、高齢者のみ世帯等で希望される方に手作り弁当を届けた。



また、一時、野菜の高騰により食材料費の捻出に苦慮したが、住民の方から多くの食材料の提供をいただき、予算内でのサービスを実現できた。

ボランティア、民生児童委員の配達時には、話し相手や安否確認などもでき、心の交流につながった。

配達ボランティア研修と交流を目的として2月21日、四万十市社会福祉協議会が実施する配食サービスの視察研修を実施し、ボランティア19名の参加を得た。調理や配達時の工夫や配慮について学ぶことができた。

＜平成29年度ふれあい配食 実績＞

	配食数（食）	利用者数（人） （4月時点）	調理ボランティア （延人数）	配達ボランティア （延人数）
東地区	2,095	52	288	428
西地区	2,374	74	294	233
計	4,469	126	582	661
※前年度	4,601	123	542	666

(4) 災害ボランティアセンター事業

南海地震に備え、平常時から、地元団体が自力で「災害ボランティアセンター」の設置、運営ができるように、36の各種団体・機関と共に体制づくり、体制強化を図った。

また、啓発のため、自主防災組織の会合で災害ボランティアセンター運営会議の取り組みや災害ボランティア活動について説明を行った。

実施日	事業名	参加者数
8月17日	第1回災害ボランティアセンター運営会議	20名
9月15日	災害ボランティアセンター運営基礎研修	4名
11月25日	橋本新町地区自主防災組織での災害ボランティアセンター活動の説明	9名
12月10日	貝ノ川地区自主防災組織での災害ボランティアセンター活動の説明	24名
2月4日	地域住民を守る災害救護救援研修会	8名
2月28日	第2回災害ボランティアセンター運営会議	18名

5. 啓発・福祉教育事業

(1) 社協だより「あくしゅ」の発行

毎月1日を発行日として、年間12回発行した。各地区長に協力をいただき、全戸配布を行い、また町内の金融機関や公共施設、交流施設等関係機関へも配置をお願いした。

A4サイズ、全6ページ1色刷り、2月号についてはカラー印刷の体裁で作成した。また、ホームページへの掲載も行った。

(2) ホームページの活用

情報開示や住民への福祉サービス情報提供、福祉活動参加への動機付け、町外の津野町関係者とのつながりの構築、商品販売を目的として、本会のホームページを活用した。

ホームページの更新や内容管理については、課題も多く残っているが、計算関係書類の公開、あくしゅ等の機関紙の掲示などを随時実施した。

(3) 社協リーフレット「こんにちは社協です」作成、配布

社協会員募集時(7月)に、社協の事業概要などを紹介したパンフレットを作成し、全戸に配布した。パンフレットの裏面には、住民の安心を支援するため、「お守りカード」を刷り込んだ。

(4) 子ども福祉・ボランティア活動

■ボランティア活動・福祉教育推進事業助成金交付事業

津野町内の小、中学校が行う地域でのボランティア活動や福祉教育・伝承活動の取り組み支援することを目的として、本会の会員会費を活用して助成を行った。

＜平成29年度助成先＞

学校名	助成事業内容
中央小学校	施設訪問、作業所交流、サロン訪問、米作り、お茶づくり、伝統的食文化の学習
精華小学校	いきいきふれあい祭、敬老年賀状、高齢者との交流
葉山小学校	地域との連携交流事業、ふれあい集会、感謝祭、学習発表会
東津野中学校	神楽の伝承
葉山中学校	保育園訪問ボランティア活動、24時間TV募金活動、全校ボランティア活動、高齢者への年賀状、勤労体験

■福祉教育・ボランティア学習の推進

津野町内の小・中学校と連携し、福祉体験活動に取り組んだ。

道徳授業＜東津野中学校＞

- 実施日：平成29年6月24日
- 対 象：東津野中学校3年生、保護者、地域住民
- 内 容：民生委員活動と社協活動
地域で行われているボランティア活動

人権学習＜東津野中学校＞

- 実施日：平成29年7月20日
- 対 象：東津野中学校全校生徒
- 内 容：うらしま太郎高齢者疑似体験
地域の高齢者から聴く「シベリア抑留体験談」

地域交流事業＜葉山小学校＞

- 実施日：平成29年12月1日
- 対 象：葉山小学校5年生、老人クラブ（姫寿会）
- 地域サロン（白雲サロン・城下町サロン）
- 内 容：葉山小学校感謝祭での交流もちつき

6. 在宅介護・在宅支援事業

(1) 介護保険サービス「訪問介護事業」

居宅サービス計画に沿った訪問介護計画の作成を行い、利用者とのコミュニケーションを大切にして計画に基づいたサービスの提供を行った。

ケース検討会を定期的に行い、情報を共有することによって統一したサービスを提供することができた。ヘルパーの資質向上のための職場内研修（調理実習、災害時初期行動計画、記録の書き方）を行った。

苦情解決も迅速に実施できたが、苦情相談の減少が課題である。

<平成29年度利用実績>

月	利用者数（実人員）		稼働ヘルパー数 （実人員）
	29年度	※前年度	
4月	15	20	6
5月	14	19	6
6月	16	18	7
7月	17	18	7
8月	20	18	6
9月	21	15	6
10月	19	15	6
11月	17	16	5
12月	16	17	5
1月	17	14	6
2月	17	16	5
3月	17	17	6
合 計	延206	延203	延71

<平成29年度サービス内容別提供数>

サービス内容	提供回数(回)		延時間（時間）	
	29年度	※前年度	29年度	※前年度
身体介護	556	454	306	272
生活援助	425	842	402	800
身体＋生活	221	149	238	165
介護予防		243		243
介護予防・総合	419	156	419	156
合 計	1,621	1,844	1,365	1,636

(2) 介護保険サービス「訪問入浴介護事業」

居宅介護事業所と情報共有することによって安心、安全に入浴サービスを提供することができた。昨年度に比べ利用が減少し、経営面は厳しかった。

平成29年度利用実績

- 利用者数：4人
- サービス提供回数：43回（前年度57回）

(3) 福祉用具貸与・介護用品あっせん事業

通院時や外出時のみの車椅子貸与を無料で行い、ベッドの搬出入は、本会事務局で行った。

介護用品の斡旋については、本会事務局で相談を受けながら対応した。貸出用福祉用具の充実のため、需要の多い電動ベッド2台を購入した。

所有用具	貸し出し利用人数		
	短期	長期	※前年度
電動ベッド	0	16	長期 17 短期 0
車椅子	38	6	長期 8 短期 45

(4) 生活支援型配食サービス

町からの受託事業として実施。ケア調整会議で必要と認められた方へ昼食を配達した。全町で毎日型の配達を実施した。普通食は、町内飲食業者、特別食は、特別養護老人ホームに調理を委託し、配達は大協職員が対応した。安否確認や必要がある場合には、関係機関への連絡等、在宅生活の継続を支援した。

＜平成29年度利用実績＞

区分	利用者数（人）	提供食数
特別食	5	883
普通食	19	2,684
計	24	3,567（前年度 3,418）

7. 障がい者地域生活支援

(1) 地域活動支援センター

町内の障がいのある住民が交流活動やレクレーションを通じて、地域との交流や仲間づくりを行うために、毎月「わきあいあい広場」を実施し、また、集団生活に馴染みにくい在宅障がい者が生活の訓練などを行う「わきあいあい広場ミニ」を開設した。

また、支援ボランティアとミーティングを行い、障害の理解や個別支援について話し合った。

ご本人や家族の抱える困りごとに対応するため支援員が在宅訪問を行い、生活状況把握や悩み事を聞かせていただき、関係機関と共に情報共有した。

学校の長期休暇期間中には、障がい児童、生徒対象に「障害児長期休暇支援事業」を実施し、関係者及び支援ボランティアの協力を得て、子どもたちの様々な体験や遊びの場を提供し、楽しい休暇を過ごしてもらうことができた。保護者と子どもたちの様子などの情報交換のため茶話会を開催し、保護者同士の交流の場となった。

■わきあいあい広場

町内の障がい者の交流の場として毎月実施した。

参加を通して、社会生活の幅が広がり、日常生活の中でも声掛けができる仲間となってきた。

実施日	内 容	参加者数（人）	
		障がい者	ボランティア 社協職員
4月19日	ピザ焼き体験、レクリエーション	9	8
5月15日	調理、スポーツ体験（ペタンク、ボッチャ）	12	9
6月13日	調理、カラオケ	12	7
7月3日	調理、防犯・交通安全勉強会	8	7
8月29日	お出かけ（動物園、買い物）	10	12
9月26日	調理、スポーツ体験（卓球バレー、ボッチャ）	9	7
10月4日	調理、お出かけ（コスモス祭）	13	9
11月21日	調理、陶芸教室	9	5
12月18日	調理、クリスマス会	9	9
1月14日	調理、テーブルゲーム	10	5
2月27日	調理、次年度話し合い	7	10
3月17日	お出かけ（チューリップ祭、買い物）	13	8
合 計		121	96
※前年度		145	98

■わきあいあい広場ミニ

日中の居場所を確保し、自分のペースで社会的な体験ができる場として、開設した。集団の中では対応できにくい個性と障害特性への配慮をしつつ生活課題に向き合い、調理や作業など利用者主体の活動となるよう個別支援を行った。

実施月	内 容	利用者数(人)
4 月 (2 回)	調理、お菓子作り、手芸	5
5 月 (2 回)	調理、あったか・作業所見学、手芸、パズル、ハンドベル	4
6 月 (2 回)	調理、手芸、パズル	3
7 月 (2 回)	調理、座談、パズル	3
8 月 (2 回)	調理、手芸、パズル、あったかふれあいセンター参加	3
9 月 (2 回)	調理、座談、手芸、トランプ	3
10 月 (2 回)	調理、パズル、手芸、ハンドベル	5
11 月 (2 回)	調理、訓子府町障がい者と交流、作業所見学、読書、散策	5
12 月 (2 回)	調理、座談、手芸、パズル	4
1 月 (2 回)	調理、座談、パズル、オセロ	2
2 月 (1 回)	調理、座談	1
3 月 (3 回)	調理、座談、クイズ、ゲーム	5
計		43

■生活相談事業

在宅で暮らされている障がいのある方々のうち、町より訪問依頼のあった方に支援員が訪問し、日ごろの困りごとなどの聞き取りを行った。必要なケースについては、町や保健師に相談し、つないだ。

■障害児長期休暇支援事業

保健師等町関係者との協議や関係学校との連絡をとりながら、子どもたちが楽しい休暇を送れるよう支援した。地域住民、支援ボランティアの協力を得て実施し、また、中土佐町の子どもたちとの交流を行った。



<平成29年度長期休暇支援事業実施内容・参加者数>

実施日	内 容	参加者数（人）		
		対象児童・生徒	ボランティア	職員(町、社協)
7月24日	読み聞かせ、職場見学、防犯教室 調理実習計画	7	3	6
7月26日	調理実習、宿題、読み聞かせ、 川遊び	9	3	7
7月28日	宿題、ピザ焼き体験、木工教室	10	11	6
7月31日	宿題、読み聞かせ、自由遊び、 プール	9	4	8
8月2日	宿題、調理実習、プール	10	6	8
8月4日	宿題、調理実習、プール	11	8	8
8月8日	宿題、読み聞かせ、調理実習、 レクリエーション	9	7	4
8月10日	スポーツ体験（卓球バレー）、 よさこい見学	9	9	7
8月18日	宿題、中土佐町の子どもたちと 交流	8	4	7
8月21日	宿題、音楽療法、歯科教室 プール	10	6	6
8月24日	宿題、書道教室、プール	9	8	5
12月26日	羽子板作り、レクリエーション 宿題	10	4	5
1月5日	宿題、調理実習、羽根つき	10	3	4
3月27日	グラウンドゴルフ(老人クラブと 交流)、宿題、おやつ作り	11	4	4
合 計		132	80	85
※前年度		115	82	98

■茶話会

障がいをもつ子どもたちの保護者同士が悩みや楽しみを共有しつつ、親同士がつながるための茶話会を休日や夜間に実施した。

また、子育て支援の立場から、保健師の実施する子育て講座（ペアレントトレーニング）に参画し、障がい児の保護者と共に学んだ。

- 平成29年5月27日（土）
内 容：夏季わくわくふれあいデーの内容
子どもの障がい特性、幼少期の悩み
参加者：保護者3人、児童2人
- 平成29年11月25日（土）
内 容：冬季わくわくふれあいデーの内容
障がいをもつ親同士の集まりについて
参加者：保護者3人、児童4人
- 平成30年3月1日（木）
内 容：障がいをもつ子どもの進路について
参加者：保護者4人、児童1人

■自立支援ボランティア研修

障がい（児）者の支援のために活動する自立支援ボランティアの学習の機会をつくり、職員も共に学んだ。

- 平成29年11月22日（水）
内 容：心のびのび気分ほっこり交流会
場 所：こうち男女共同参画センターソーレ
参加者：ボランティア5人
- 平成30年2月24日（土）
内 容：コミュニケーションスキルアップについて
場 所：四万十町役場
参加者：ボランティア3人
- 平成30年3月18日（日）
内 容：重症心身障害児サポート学習会
場 所：津野町役場西庁舎
参加者：ボランティア6人

（２）障害福祉サービス「居宅介護」

在宅生活、地域生活を送るために、利用者の身体機能や心に合わせたサービス提供に努めた。ヘルパー間の情報共有やケース検討の場をもち、利用者とのコミュニケーションをていねいに行うことにより、利用者に寄り添ったサービスを提供することができた。

利用者のサービスの質を高めるために、町相談支援事業所、サービス関係スタッフとのケース会議にも出席した。

平成２９年度利用実績

- 利用者数：６人
- サービス提供時間：４０３時間（前年度２６０時間）

（３）移動支援事業

外出のための移動に困難がある障がい児・者の日中の地域での自立生活及び社会参加を促すことを目的とする事業で、町より受託し、介護職員による移動支援を行った。

平成２９年度利用実績

- 利用者数：２人
- サービス提供日数：１３日（前年度１５日）
- サービス提供時間：５０．５時間（前年度９２．５時間）

（４）日中一時支援事業

町からの受託事業として実施。家族の就労支援や障がい者等を日常的に介護している家族の一時的な休息を目的として、町総合保健福祉センター及びこども園を利用して支援を行った。

平成２９年度利用実績

- 利用者数：１人
- サービス提供日数：１７日（前年度１１日）
- サービス提供時間：１０２時間（前年度３３時間）

8. 就労継続支援（B型）事業所

（1）経営

障害福祉サービス就労継続支援（B型）事業所として、どんぐり農園
グリーネ・作業所里楽を一体的に運営し安定した経営を行った。
老朽化した倉庫の建て替えを行った。

（2）利用者の状況と支援

年度当初は、利用者20名であったが、新規利用者4名、退所者2名
（入院及び施設入所、他の事業所利用）で年度末現在で22名の利用者
となった。

利用者数は増加したが、継続して通所ににくい利用者もいることから
利用の定着が課題である。また、高齢となった利用者への作業面の配慮
や退所後の生活維持の課題も大きくなってきている。

支援については、個別支援会議及びモニタリング会議等により、個別支
援計画を作成し、個人の能力や心理、体調等状況把握を行いながら指導及
び支援を行った。

また、職員の支援のスキルアップ、組織力向上を図るため各種研修会、
町相談支援センターつのが行うケース会議へ積極的に参加した。

（3）作業と売上げ

授産事業では、どんぐり農園のハナニラで春先の冷え込みが生育に影
響し、生産量が著しく減少した。また、花苗についても病虫害の影響で
出荷数が減少し、その結果、大幅な減収となった。

作業所里楽では、クッキーの商品改善や作業の効率化を図り、クッキ
ー作業に取り組める利用者が増え、昨年開発した新商品も多く製造可能
となってきたため、本年度も新商品の開発に取り組めた。

販売活動では、どんぐり農園と作業所里楽が連携し、精力的にイベン
ト等に出店して販売を行った。また、高知市や須崎市の医療機関や施設、
量販店等での販売や町内直販所へも出品した。

売り上げは、どんぐり農園では、花、野菜、苗木、クリスマスツリー、
町からの清掃作業受託による収入が主であった。作業所里楽では、クッ
キー、パウンドケーキ、喫茶、自動販売機等の売り上げと町や葉山荘か
らの清掃作業受託での収入があった。

(4) 研修

作業所里楽が利用者11名、家族3名、職員6名の参加で一泊研修旅行を実施し、和歌山県の「麦の郷はぐるま共同作業所」の施設見学とマリーナシティの社会見学を行った。

<平成29年度利用実績>

月	利用者数 (実人員)	利用者数(延人員)	内 訳	
			どんぐり農園	作業所里楽
4月	20	325	154	171
5月	19	334	155	179
6月	19	356	159	197
7月	18	310	135	175
8月	18	297	124	173
9月	20	316	139	177
10月	21	361	147	214
11月	22	374	145	229
12月	22	339	130	209
1月	22	298	123	175
2月	22	273	100	173
3月	22	357	149	208
合 計	245	3,940	1,660	2,280
※前年度	252	4,324	2,059	2,265

<平成29年度販売活動の実績>

4月・・・食改総会
 5月・・・春の特産市、障がい（児）者連総会
 6月・・・一陽まつり、町老人クラブ連合会総会、
 高幡老人クラブ連合会総会
 7月・・・高岡地区婦人会研修会
 8月・・・町内教職員研修会
 10月・・・老人大学
 11月・・・精神障害者家族会研修会（梶原町）、産業祭・健康ふくし展
 12月・・・障がい（児）者連クリスマス会
 3月・・・シルバー手作り展（高知市）、一陽病院記念講演会
 通年・・・ふくし交流プラザ、須崎市量販店、高知市内病院、地域サロン
 あったかふれあいセンター

9. 共同募金事業、日赤事業

(1) 共同募金、歳末たすけあい募金の募集と助成

共同募金推進計画に基づいて募金活動をそれぞれ行った。

戸別募金では各地区長の全面的な協力で募金活動を実施し、歳末たすけあい運動では、産業祭・健康ふくし展時に、手作り餅の販売を行い、歳末たすけあい募金として寄付した。

➤ 赤い羽根共同募金

募金実績額： 1,239,743 円

本会で受けた助成額： 786,000 円

助成事業： ふれあい配食サービス、福祉パトロール
社協だより「あくしゅ」発行

➤ 歳末たすけあい募金

募金実績額： 223,200 円

本会で受けた助成額： 115,888 円

助成事業： 年末おせち料理配食

(2) 健康ふくし展への参画

歳末助け合い「もち販売」を行った。あけぼの館で作り、会場の B&G 海洋センター前で販売した。民生児童委員、本会役職員の協力により実施した。

住民よりたくさんのもち米の寄付を受け、予定通り実施できた。

今後、衛生面やもち米の確保等、歳末たすけあい運動の実施方法については検討していく必要がある。

また、「作業所里楽」の喫茶コーナー開設や「どんぐり農園グリュエネ」も花などの販売をし、収益につなげた。

〈歳末助け合いもち販売〉

売上げ：172,000 円



(3) 歳末たすけあい助成事業「おせち料理の配食」

歳末たすけあい義援金を活用して、年末に一人暮らし高齢者、高齢世帯等へボランティアによる手作りおせち料理を配食した。

西地区、東地区それぞれに寿司などメニューの打ち合わせや材料の購入準備などボランティアの多くの協力で実現できた。

- 実施日 平成 29 年 12 月 27 日
- 配食数 330 食
(西地区 165 食、東地区 165 食)
- 調理・配達ボランティア 延 146 人
(西地区 87 人、東地区 59 人)



(4) 日赤（日本赤十字社）事業と活動資金募集

赤十字事業の啓発に努め、その活動資金の募集を5月の「赤十字会員増強月間」に行った。各地区長の協力で次のとおりの実績があった。

- 目標額 810,000 円
- 実績額 927,300 円
- 災害積立金 431,270 円

また、日本赤十字社高知県支部高幡地区の事務局を務め、本会会長が地区長を兼務した。

10. 福祉団体の活動支援

各団体の事業計画に基づき、役員を中心とした事業運営が円滑に行われるよう支援した。事務局として活動した団体は、次のとおり。

(1) 民生児童委員協議会 事務局

本会と協働しながら、福祉パトロール、安心安全見守り台帳作成等に主体的に関わり、調査、調整、学習活動等を行った。

昨年訪問した北海道訓子府町民生児童委員協議会の来町を受け、交流研修で情報交換を行い交流会で親睦を深めるための調整などを行った。

毎月の定例会開催や学校訪問の調整、会計事務、各種研修会への参加調整、研修事業調整など事務局業務を行った。

(2) 老人クラブ連合会 事務局

地域老人クラブの衰退が進む中、町内外の会員や小中学生など幅広い世代との親睦、交流を目的として事業に取り組んだ。

事業の計画、実施に関しては役員を中心に取り組み、事務局としては単位クラブの連絡調整、町や高幡・県老人クラブ連合会との調整を行った。

また、3B体操の講習やウォーキングなどの健康づくり活動、各種研修会などの教養活動等、明るい長寿社会づくりを目指し、様々な事業を実施した。

(3) 障がい（児）者連合会 事務局

町内会員の交流を目的に、役員が中心となり事業企画を行った。行事には、ボランティア団体（シルバー介護士会、自立支援ボランティアわきあいあい）の協力を得て、多くの会員、家族が親睦を深めることができた。事務局として、各事業の調整、周知とりまとめ、会計事務などを行った。

（４）母子寡婦団体「ひまわりの会」事務局

活動費を得るために“めんつゆ”等の販売の支援を行い、会員同士の親睦旅行やボランティア活動を実施した。事務局として、会員が安全に活動に参加できるよう配慮した。

（５）シルバー介護士会「ひだまり」事務局

一人暮らし高齢者等の在宅訪問活動が定期的（月１回）に実施できるよう、訪問世帯の調整や訪問後の心配なケースを関係機関へつなぐなど支援した。また、一人暮らし高齢者等を招き、一日宅老所「ひだまり」を３回実施した。